

小原に代り、武富もその下僚として、重用されることになる。

(註4) 着京した大石を、早速取調べたのは武富であった。この武富がまるでねつ造でつくり出した聴取書は宮下、新村をおとし入れる道具になり、さらに彼が紀州

国際通信補遺

FRRI号からの手紙

from FRRI,
Feb. 5, Johore Baru, Malaysia

香港からここまでとはとても荒れた航海でした。まだ目的地までには、ほんのちよっとの最初の航海だというのに。

最新のステレオで、感覚的快樂にふけている文明人には、そのことがどう想像できるでしょうか。)

風は強く疾く、空は厚い冬雲でおおわれていました。北東のモンスーンは—日本では稲に水を与える全く配りながら、ある島からまた別の島

ともかく私たちは、昔ながらの垂鉛(長いひもで大へん重い)を海中に垂らして、坐礁しないように気を

の視野に、戦火のあとのまだらにのこった山が静かに横たわり、風と波

熊本、大阪と出張調査することで共犯被告を生み出す筋立てが完全となっているのである。



同じものが—ここでは台風を追い払い、土地から生れでるすべ

へと、注意深く、いま船がどの位置にいるかをたどりながら航海しています。というのは海流—それは時々一日で五〇マイルも私たちを流してしまうことができる—のため、夜のうちに海岸へと押し流されてしまう危険があるのです。

海南から、私たちはベトナムに直行しました。そこでは太陽が大いに笑い、風が吹いていました。その風のためFRRI号は二一五マイルも海岸を流されてしまいました。私たちが

しびきのなかで、その傷を癒しているのがうつてきたとき、私たちーは奇妙な感慨にとられました。私たちは過去におしもどされ、ビキニやサイパンをとって日本での半年間のなつかしい思い出、ウリの仲間の一一人の顔をおもいうかべました。ヨシ、カズオ、シゲル、ファイルロコ……みんな元気ですか。

マレーシアの東海岸のある河口についたとき、私たちは幾人かの友人をつくりました。彼らは、FRI号のブームの取り替えに必要な、丈夫な木を買い求めたとき、切倒して運ぶの手伝ってくれました。

それから私たちは村人が住んでいる、いくつかの島で、ほんの二ー三日をすごしましたが、村人たちは、

FRI号の「平和への旅オデッセー」のスライドをみに来、手染めのTシャツを買ってくれたりしました。これは私の航海をつづけるためにも貴重な収入でした。

いま私たちはマレーシアのジョホールバルという小さな都市に船を係留しています。そしてナムビア向けの本を集めるキャンペーンをはじめました。

これからインド、マドラス、スリランカ、デイエゴガルシア（ここにはアメリカがインド洋を支配する妨害物（基地）がある）、モーリシャス、マラガシー、モザンビーク、ナムビアへと向うわけですが、その前に次の週はシンガポールへ短期間、同じキャンペーンのために行くつもりです。

人種的に色々な国の乗組員が混乗している私たちのFRI号が、南アフリカのナムビア以外のどこかに入港せざるをえないということはありうることです。多分私たちはあまり歓迎されないでしょう。そこにはもうひとつのムルロア型の対立が多分あるようです。ナムビア内部の政治的展開と関連するいくつかの困難が私たちを待っています。

ロンドンのナムビアオペレーション本部は私たちと連絡を申出てきていますが、しかしすでに如何に誰へこれらの本を渡すべきかに関して論争が起っているのです。本来こんなことにエネルギーを費す必要がないのですが、実際には多分費さざるをえないでしょう。ーもちろん世界での保守的な権力構造は、何も右のよ

うな内部的な政治的問題にだけあてはまるのではなく、私たち自身のうちにもあるわけですが：

ところで、私たちのエンジニアローイが、去年十月イギリスを出発し、いま、アフリカ西海岸を航走中のナムビア行動参加船ゴールデンハーベスト号の船長という、すごい仕事で活動しているのを知っていますか。エルザはホンコンにとどまって大極拳を習っています。それに剣術も練習しています。

オリエッタとアリストテアは、アフリカ文化を学ぶためタンザニアへ行こうとしており、マルチンはヨーロッパとベルシア湾を航海する船の二等航海士です。

バーナードはニュージーランドにおり

新しいトライマン（補助艇のあるヨット）を完成させて航海に出るブラをねっています。彼は、原子力フリゲート艦ロングビーチのオークランド寄港に反対のため、非常に効果的に彼の船を抗議帆走せました。

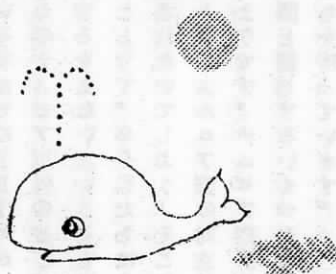
いまFRI号の乗組みはスイス、デンマーク、ニュージーランド、中国、日本（ヨシはいつも元気です）アメリカ人から成立っていますが、幾人かシンガポールからも応募してきました。

あなた方ウリはどのような直接行動をいま考えていますか。裁判の抗告はどうなりましたか。日本中の私たちの仲間ひとりひとりに、特別によろしく。—そうです、みんなへ特別に。私たちみんなが個性をもつように、特別に！。

追伸

香港で受けとったあなた方からのカンパのお礼を出し忘れていたら許して下さい。あのおきのお金は、どんなにうれしかったことでしょう。それほど私たちはそれを必要としていました。

デイビット



直接行動發行にあたって

△直接行動Vは売るもの△商品Vの一般的なかたちをとっていますが、買ってもらうために、刊行されているわけではありません。自分も発行者の一人となり、本をつくりそして読むというもの——共同行動として提起されています。

だから仲間に対しての一部七百円、二部千円三部千三五〇円（二部以上は一部三五〇円の割）という金額は、△直接行動V製作のための「資金の部分を受持」△共同行動V分担金の期待額というわけです。自分のものでなく△共同行動V分担金を出す気が起らないとすれば、その責は、このことを提起した私たちが負うべきものだと思います。

△直接行動V刊行の目的は、才一に孤立散化している仲間が雑誌という具体的な情報伝達の媒体によって不可視の連合を意識化することであり、才二にウリの

W R I あさひまち

思想と行動の意味を、未知既知の仲間に深めひろげることであり、才三に、直接行動として自らがその刊行の共同行動に可能な方法で加わる——そのことを可視化する——ということにあります。とすれば、この△直接行動Vは、当然のこととして未知既知の読み手を受け手として、何の対価を求めずに送りとけられるのが原則です。

△直接行動Vは、その刊行を発起し自らその任を買って出たウリ旭町（大阪）が、事務手続きとして編集し、発行する責任を負うものです。それゆえの内容的な未熟や偏向についての批判は甘受しながら、私たちもまた仲間の一人として△共同行動Vに参加しているつもりです。そして私たちの全能力でこの△共同行動Vの責を負った部分について（出しやばりを内心おそれながら）遂行してきたと思っています。（そして、次の四号まで出した上で、その後をどうするかをも含めて、一応私たちが提起したことの責任を解いてもらうべく、仲間の意見を求めたいと考えています）



ところで△直接行動Vの刊行は、ウリ旭町の私たちを中心に、のべ二〇人前後の助っ人の労力で、タイプうちから製本まで約一ヶ月半、それこそ手作りで行われ、送り出されたものですが、郵送料をふくめると実費二十万円余を必要とします。もし△直接行動Vがウリ仲間全部の△共同行動Vつまり自分も発行者の一人となり、本をつくり、そして読むということに不充分でも値いするものならば、この二十万円余をウリ仲間全体で分担することで「何の対価もなしに送る」という原則が成立するとも云えるでしょう。

しかしこの△直接行動Vを△共同行動Vとして——というのは例えばあの天ステッカーの時のように、たゞ単に私たちが提起し、送りとどける、ということだけにすぎません。またその対象とする仲間は——と云えば厳密には百部もつくれば充分というのが実情でしょう千部の刊行は、新しい未知の仲間への呼びかけのためであり、しかも今号のように百数十頁の雑誌を出すというのは、実力から見るかに以上のこと

それゆえ私たちは、△共同行動Vとしての分担金を仲間のみんなに無理矢理におしつける気はありません決してウソではなく——。つまり仲間がこれを自分で発行すべきものとして受とめるかどうかは、全く仲間一人一人の事情とその判断に任ねる以外にないと思います。

このような考えのもとに私たちは本号を一生懸命、全力をつくしてつくりました。そして仲間のものとして提出する自信があります。たゞざっと目をおすのでなく、自分のつくったものとして、ゆっくりといねいに読んで下さるならば。きつと一つ一つの文章がまた、一冊としての総体があなたの心に何らかのものを呼びおこすだろうと確信します。

(追記)

あなたの友人を紹介して下さい。無償で宣伝用に使えます。また、あなたが読了した△直接行動Vを友人へと廻して下さい。たった千部の発行は、それによって千五百にも二千発行の力をもつことになります。

事務所から



☆ ㊦風刺ステッカー全国一せい行動Vに対する、権力のあまりにも異常な反応ぶりには、(全国一せいということでは、敵サンもオッタゲたかもしれないが) ぼくらはオッタマゲターというほかない。

なかまの一人一人が全く個別単独でやったことなのだが、それも手にした小石をばいと池へ投げたほどのこととたんに一天にわかにかきくもって、波立ちさわぐ水面からネス湖のネツシーならぬ怪物が、その巨大な片鱗をちらりとあらわしてシッポで一撃。それも空ぶりでさっぱり痛くないヤツ。

「天皇制って、どうもピンとこない」なんて、その前夜までしやべっていたばくらにとつて、それこそ㊦天皇制さわってみればよく判るVで、これほど靈驗あらたかとは、めったに求めて得られぬ実地教育だった。

それともうひとつ重大な収獲は、日本全国に点在する五百の仲間たち、それにつながる数百人。さらに名のみで知るだけの世界二十数ヶ所の仲間グループとの㊦不可視の自由連合Vが、がぜんはつきりと、しかも力強い手

応えて浮かびあがったことだ。それはまたなによりも㊦なかまVの意識を、それゆえにウリを、ぼくらの胸に一時的にもせよ覚醒させるものだった。この㊦自由連合Vの力は、時間がたつにつけ、これからの一そう重要な示唆をもつものとして、はつきりしてくるだろう。

この事件から「ウリとは何や」という問合せや、新しいなかまが十人もふえる—というおまけもついた。あれやこれや考えてみると、大いにもうけたのはどうもぼくらの方と云わねばならない。大逆不敬本部(おおさかふけいほんぶと読むこと)に感謝状でも贈ろうか。

☆ それから㊦準抗告Vのことだが、二月二一日現在まで裁判所から何の音沙汰もない。弁護士と連絡をとっているが三ヶ月余も放りっぱなしは例がないとのこと。鬼が出るか鰐が出るか、あまり期待せずに待機しているところである。(孝)

☆ ㊦女の運動V—スコットランドでプロテスタントとカトリックが対立する中で、「暴力はやめろ」と女たちが立上るところ—タイプを打ちながら、うんなかなかやるなあ—と思った。今日は「住金刑務所」。いまちやうどその三分の二くらいを打ち終ったところ。打ちながら

「へえー、ひどいなあ、会社なんてひどいことするもんやなあ」と、打ちながら腹が立つてくる。いま毎晩ねる時に読んでいる「朝鮮人強制連行の記録」とだぶって、ちっとも企業の本質は変わっていないんだ、ちくしように思う。

そして、だんだんますます腹が立つてきた。だけどそれは住友金属の会社の方ではなく、働いている人たちの方に對してだ。よくもこんな仕打ちにみんな耐えていられるもんだ。耐えているからいつまでたってもしいたげられるんだ。宋斗会さんじゃないけど、もっとやられるーといったくなってしまう。被害者づらをするなそれが住金の制度を支えているんじゃないか。

じゃあ、おまえならどうするんやーといわれたら無責任な放言だが私ならすぐやめる。そんなところで働くもんか。

やめたら生活に困るやないか、おまえは一人身で簡単にやめることが出来るかもしれないけど、わしらは妻も子どもも、両親だって面倒みなあかんのや。ということがあるだろう。だけど、そうやって「守る」ものに執着するかぎり、「守る」ものは際限なく大きくなる。そして「守る」ためと云いながら、結局はそのさいこの生命ま

でもすべもなく取られてしまうことになる。

「守る」べきもの―その執着をええいとすてて、ひらきなおる姿勢をとらないかぎり、私たちは負け続けるだろう。強くなれないのだ。ひらきなおったら、そこから始めてやめるというだけでは解決できない問題に對して、たち向っていくことができるのではないか。とふと思ったのだ。弱い羊は、百びきあつまっても弱い。強い羊が百びきあつまっても強くなる。まず個として強くならねば。それが運動のはじまりだろう。それにしても資本や体制側は、弱い者をいよいよ弱くするようにうまく管理するなあ。

(2月4日・風太郎)

※ なんか埋め草を書かなアカンのやけど、この手紙どう思う。「ウリには私をつきうごかすものがないから私はウリに参加しない。何となくウリに参加していて、その実ウリとの関係、その宣言についてうやむやにしている―そんな人達こそ、もっとウリ宣言を自分につきつめて考えるべきではないか。」

※ そういわれたら、宣言、もう一度ていねいに読んでみよか。

※ ……

※ ちゃんと書いてあるやん、なかなか。

※ で、つきつめて考えるというのはどういうことやろ
※ づーとつくえに向って、考えることではないやろ。
もちろん。

※ うん、私はなんのひっかかりもなしに、確認の登録
をしたわけやけどー宣言をよんで、ふうんと思うて、そ
う思うことがウリ、ウリやと自分が思ったらウリやと
※ 私はもっと単純。こうやってタイプ打ったり、毎日
くるいろんな人としやべったり、ごはんをつくったり、
それで知らんまに、自分でウリやと思っしてもてる。

※ ほんま、行こか云われてデモに出たり、集会で話を
きいたり、差入れや面会をしてるうちに、もう何や動か
なあかん気持になつて。しんどいなあ……

※ 私はウリでないという立場と、つきつめて考えてい
ないとしても私はウリやというものでは、「やること
が出てくる」と「いつまでも出てこない」というふう
に次第に大きなちがいが出てくるんやないかしら。

※ そやそや

※ つまり、宣言に書いてあることが自分の中にあるこ
とー無意識にあることと、ちよつと触れ合ったとい
うことがあるからそやそやということがあるわけで。それ
をウリということで自覚というか意識するか、せえへん

か、それだけのことや。

※ そしたらある日、気づいたら体が動き出してる。

※ べつに動く動かんは自然の成行きやろ。

※ 私はウリです。文句あるかノと大声で遠慮なく云え
たらほんまのウリとちがうか。

※ そやそや。遠慮したり、小さい声でしか云われへん
というーそんな考え方や感じ方は一体何か。どこから出
てきてるか、それが判ることが「つきつめて考えること
」かもしれへんで。

※ ことばでつきつめるんじやなくて、身体でつきつめ
ることが必要やと思うな。

※ えらい判ったようなこと云うて、ほん「私はウリや
」て、あんた大声で人に云えるか。

※ よーいわん。みんな誰もよーいわんやろ……
※ はな、もっとみんながつきつめなあかんわけや。
(るり子アンドふう)

※ 印刷が予想外にきたなくてがっかり。すみません。

※ 仲間のこえ、のべ七四人の登場。それと国際通信はウ
リならでは、と自慢したい。もうひとつ「意見陳述」は
どうしてもウリのなかまに読んでもらいたいと思つて荒
井氏に転載の許しを頂いた。「革命戦争とは何か」とあ
わせ、創刊号水田論文と関連すると思ふ。

(孝)

直接行動 3 号

目次

とびら(カット)⊗ステッカー8種の内)	1
天皇制さわってみればよく判る	2
<なかまの声>Ⅰ 天ステッカーをめくって—44人	11
<委託販売の助っ人を>	32
<なかまの声>Ⅱ 2号感想はか—23人	33
<なかまの声>Ⅲ 女と政治—7人	50
<国際通信> 7編 一訳・原子東橋—	57
<自由連合・四つの意味>	72
非暴力直接行動と非暴力 —しのだもりの—	73
殺すということ —市川白弦—	76
罪悪または過去について —H—	78
東アジア反日武装戦線公判廷意見陳述	80
革命戦争とは何か—ウリ宣言の意味—	94
<仲間の意味>	103
<なかまの声>Ⅳ なかまのミニコミから—10件	104
WR I 日本からの呼びかけ	113
<女の運動>が示唆するもの —ワットタイラー—	114
住金刑務所 —中村 治—	131
連載 大逆事件の周辺で(三)	139
国際通信補遺 FR I 号からの手紙	150
<直接行動>刊行にあたって —ウリあさひまちから—	153
事務所から	155
◎ WR I 日本宣言・メンバーの任務・登録について …色 頁	159

(ウリ振替口座 大阪32737ウリジャパン向井孝)